

# 〔小児外科〕

## 研修の特徴と内容

### 【特徴】

小児外科：新生児から15歳までの外科疾患を対象としますが、小児で発症し、成人に達したキャリーオーバーの患者の治療もおこないます。鼠径ヘルニア・臍ヘルニアをはじめとして、急性虫垂炎、腸重積症といった日常よくみられる疾患から、胆道閉鎖症、ヒルシュスプルング病といった高度の専門性を必要とする疾患の診療ならびに手術を習得することを目標とします。またNICUと連携して、先天性食道閉鎖症、小腸閉鎖症、横隔膜ヘルニア、直腸肛門奇形などの新生児外科疾患を経験することができます。またこのような腹部疾患に加えて、嚢胞性肺疾患や漏斗胸などの胸部疾患、小児がんといった小児外科特有の疾患に対する多様な手術を経験することができます。最近では鏡視下手術を積極的に取り入れていますので、こどもにとって負担の少ない外科治療を幅広く習得します。

なお当院は、日本小児外科学会専門医制度に基づく認定施設であり、外科研修を継続することにより外科専門医、小児外科専門医、指導医の受験資格を取得することができます。

### 【内容】

#### ① 一般目標（GIO）

小児外科の基礎的知識と技術を習得するとともに、小児や新生児の基本的な診療能力を身につける。

#### ② 行動目標（SBO）

- ・自己管理能力を身に付け、生涯にわたり基本的診療能力の向上に努める。
- ・患者、家族の望むことを把握でき、良好な関係を保てる。
- ・指導医や専門医にコミュニケーションをとり医療が行える。
- ・医療を行う際の安全確認の考え方を理解し安全管理が行える。
- ・臨床症例に関する検討会や学術集会に参加し、症例呈示と討論ができる。
- ・患者の病歴の聴取と記録ができ、基本的な身体診察法を理解し行える。
- ・病態と臨床経過を把握し、必要な検査を行い、結果を解釈できる。
- ・小児外科的治療を理解し適切な治療法を選択できる。
- ・小児外科診療に必要な処置、手技、周術期管理を理解し、行うことができる。
- ・臨床上の疑問点を文献などから情報収集し解決の糸口を見つけることができる。

#### ③ 研修内容（LS）

- ・上級医の指導下に患者を担当し、小児外科診療に必要な知識と技術を習得する。
- ・入院患者の間診、理学所見を把握し、必要な検査、治療の診療計画を立てる。
- ・各種検査の画像所見の読影法を習得する。
- ・回診、カンファレンスで受け持ち症例のプレゼンテーションを行う。
- ・小児外科手術の基本手技を経験する。

#### ④ 教育に関する行事

- ・小児外科検討会（毎週火曜日午後4時～）  
内容：術前・術後検討、抄読会、研究発表
- ・周産期合同カンファレンス（毎週月曜日午後4時30分～）  
内容：新生児症例、出生前診断症例の検討
- ・放射線合同カンファレンス（毎月第1木曜日午後5時30分～）  
内容：画像診断を中心とした症例検討会

## ⑤ 研修評価

### 1. 自己評価

受け持ち症例のサマリーをファイルし、E P O Cを入力する。

### 2. 指導医による評価

受け持ち症例のサマリーの内容、E P O Cの入力状況、診療チーム内での勤務状況や姿勢を参考に評価する。

## 指導医等

教授：大植 孝治

講師：佐々木 隆士

助教：田中夏美

## 研修実施責任者

教授：大植 孝治